

h29製図課題に関する所見と予測課題アップ日

【平成29年度の設計製図課題】

小規模なリゾートホテル

要求図書:配置図(縮尺1/200)、地下1階平面図、1階平面図、2階平面図(縮尺各1/200)、断面図(縮尺1/200)、面積表、計画の要点等

(注1)「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する特別特定建築物の計画

(注2)バッシブデザインを積極的に取り入れた建築物の計画

(注3)傾斜地を考慮した建築物の計画

(注4)車両動線(車回し、車寄せ等)を考慮した外部空間の計画

【所見】

本課題から読み取れることは、「リゾート」と「ホテル」の建物であるということである。リゾートの定義は、景勝地や保養地のことであり、その場所で休暇等を過ごす場所となる。ホテルの定義は、宿泊施設である。リゾートホテルとは、景勝地などの宿泊施設となる。「小規模なリゾートホテル」とは、2020年の東京オリンピックなどを踏まえた、観光等に対する宿泊施設をどのようにすべきかの社会的課題を反映させたものである。

要求図書は、平面図が地下1階、1階、2階となっている。このことから、本施設は、2階建て(B1有)で出題される。また、従来は、「1階平面図兼配置図」となっているものが、単独で「配置図」となったことから、配置図における外構計画が問われることとなる。

本課題では、注記事項が4つあり、(注1)と(注2)は、従来通りの内容であるが、(注3)と(注4)は、新試験制度となったH21からの出題としては、新しい出題パターンである。それぞれについての所見は、下記の通りである。

(注1) 高齢者法に規定する特別特定建築物の計画

バリアフリー化は、急速に普及が進んでおり、特にホテルは、バリアフリールーム以外の通常客室にも対応するように法改正が進んでいる。本設計では、全施設内でバリアフリー化に配慮した計画をする必要があるものと推定する。

(注2) バッシブデザインを積極的に取り入れた建築物の計画

H28に引き続きバッシブデザインが出題された。バッシブデザインは、機械的な要素(アクティブデザイン)を取り入れないで、自然通風や自然採光を積極的に取り入れた省エネルギーに配慮した建築物を計画することである。近年の標準解答例では、断面図に自然採光や自然通風を取り入れたものとなっている。昨年、H28の解答参考図も参考にしながら、各種資料を取りまとめる。

(注3) 傾斜地を考慮した建築物の計画

新試験制度となったH21以降、傾斜地については、初の出題となった。ただし、過去には、H8「景勝地に建つ研修所」で敷地内の傾斜4m、H12「世代間の交流ができるコミュニティセンター」で敷地内の傾斜1.5mが出題された。ここでは、傾斜に対する基礎構造や傾斜地盤の処理について取りまとめる。

(注4) 車両動線(車回し、車寄せ等)を配慮した外部空間の計画

ここは、「配置図」の中で取りまとめるようになるものと推定できる。車回しとは、自動車が回転できるロータリーを敷地内に設けるものであり、車寄せは、ホテル出入口前に設ける車と止めるスペースとなる。この両方について、資料を取りまとめる。

【研究会の予測課題とアップ予定日】

研究会の予測課題は、昨年と同様に3予測課題に絞り込む。

各資格学校は、毎週、様々なパターンの予測課題を作問させるという学習手法を取っている。H26年度の課題では、A社11予測課題、B社14予測課題であった(会員講座 9章 製図試験の採点基準(研究会の独自推定)の「H26年度「温浴施設のある道の駅の比較表」参照)。資格学校の通学者からの意見として、「結局何がでるの?」という疑問があり、その質問をしても資格学校から解答はなかったとのことであった。資格学校としては、予測課題を絞り込むと、万一、外れてしまった場合のリスクがあまりにも大きいことと、10パターン以上の予測課題を示すことは、間違いなくどれかが類似問題となり、本手法となっていると推定する。

研究会は、予測課題を3案に絞り込み、その3案が「80%以上ズバリの中する予測課題」となることを最大の目標としている。これは、外れるとHPの存在価値がなくなるぐらいのリスクを伴う。なお、2016年度は、予測課題が80%以上ズバリの中した(無料講座 8章「予測課題の検証」に掲載中)。

1級建築士の製図試験の合格者のうち、9割以上が資格学校に通学している方となっている。各資格学校ともに、ほぼ同じ程度の合格率であり、製図は合格率40%であるが、通学者&ほぼ100%出席者等の条件付きで、その合格率は約10%アップの約50%となっている。つまり、通学しても2人に1人は落ちてしまう現状があることは、十分理解したほうが良い。某資格学校は、占有率が高い旨の広告をしているが、その某資格学校の通学者は国内で最大であり、合格率と占有率は異なることを認識した方がよい。また、資格学校は、全員に平等に指導せざるを得ない一面がある。つまり、隣の人に勝つには、結局自分で隣の人より何らかの努力をしないと勝てない(合格できない)こととなる。

当研究会は、80%以上ズバリの中するという最大の特徴を目指して、独学者も通学者も、どちらの方にも参考にして頂きたいという願いで資料作成をしている。研究会の総力を挙げて、80%以上ズバリの中する予測課題をまとめていく。当研究会の予測課題が多くの受験者に活用されるようになれば幸いである。

・2017.8.15 : 1回目の予測課題

・2017.8.31 : 2回目の予測課題

・2017.9.15 : 3回目の予測課題